

答申書

上尾市教育委員会
教育長 西倉 剛 様

令和7年3月28日
上尾市幼児教育推進協議会
委員長 首藤 敏元

令和5年6月7日付け上教指第471号にて上尾市教育委員会より提出された諮問について、令和5年6月から4回の協議会を開催したほか、幼児施設、小学校の視察を各1回実施し、下記のとおり意見をとりまとめましたので、答申します。

記

1. 諮問内容

- (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼保小の接続について
- (2) 「架け橋期のカリキュラム」モデルの作成について

2. 答申の内容等

別紙のとおり

1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼保小それぞれの保育や教育について

(1) 現状

ア 幼児施設は、環境も保育内容も多様であり、「10の姿」の読み取り方も、施設ごとに大きく異なる。

具体的には、園庭の広さはどのくらいか、どんな遊具があるのか、保育室からトイレや靴箱等の生活上の動線はどうなっているか等の環境の違いがある。日頃関わる友達や保育士の人数が異なることも環境の違いといえる。また、幼児に時間を意識させて活動を行うこと、英語活動を重点的に行うこと、高齢者の方や高校生との交流活動、言葉遊び・文字遊びの計画的な実施等、保育内容の違いもある。

イ 幼児施設、小学校において、「10の姿」を意識した保育、教育が行われているが、「10の姿」への理解には、保育士・教職員間で大きな差がある。

実態として、「10の姿」を知っている段階と、知った上で保育活動・教育活動を行っている段階がある。当然、経験が豊富な保育士・教職員の方が、日常的な活動と「10の姿」をつなげて実践している傾向にある。

(2) 課題

ア 保育士・教職員の「10の姿」への理解（子供の姿からの読み取り）が十分とはいえない。

(3) 課題解決のための方策・手立て

ア 「10の姿」を意識できる研修機会の設定

具体的には、「10の姿」を保育士・教職員間の共通言語とするため、「10の姿」についての研修を年度当初に設定することが望ましい。その上で、一つの事例について、年齢や担当学級を超えて一緒に考えたり参観したりする機会を計画的に設定することが考えられる。

既に設定されている研修の機会に「10の姿」の視点を加えたり、交代で参観を行ったりする等、持続可能な研修方法を模索することも求められる。

こうした研修を設定することで、日頃、無意識で行っている保育活動・教育活動を意識的に行うことができ、課題の解決につながると考える。

2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼児教育施設で育まれた資質・能力と低学年の各教科等における学習との円滑な接続について

(1) 現状

ア 新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、保育士・教職員間の連携や子供同士の交流会が再開している。

市内全ての小学校が、教職員間の連携や交流会等を実施している。また、アンケートに回答した市内の幼児施設のうち、9割を超える施設が保育士・教職員間の連携や交流会等を実施したと回答している。

具体的には、幼児施設保育士・教職員による授業参観、小学校教諭による保育参観、入学後の児童についての相談、入学予定の幼児に関する引継ぎ、小学生の幼児施設訪問、幼児の小学校訪問等が挙げられる。

イ 幼保小のカリキュラムの共有は進んでいる。

幼・保・小連携合同研修会等の機会を活用し、架け橋期のカリキュラムについて、幼児施設、小学校がそれぞれ作成したものを共有する場を設けている。

また、小学校が作成したスタートカリキュラム2weekについて、研修会やホームページを通して、各幼児施設が、幼児の進学する小学校のスタートカリキュラムを活用できるようにしている。

ウ 幼児施設と小学校とでは、時間の流れや人数等の環境の違いがある。
これまでも当然違いはあったが、カリキュラムの違いに注目が集まる
ことが多かった。昨今は、幼児をとりまく環境にも目を向けるべきであ
るといふ現状がある。

(2) 課題

ア 効果的な幼保小連携の在り方が、十分に考えられていない。

イ 中学校まで見通した連携の在り方という視点がもたれていない。

ウ カリキュラムの共有が、活動内容の共有に留まっていることがあり、
お互いの方針や環境等の共有にまで及んでいない。

(3) 課題解決のための方策・手立て

ア 日常の活動を参観する機会の設定

保育園、幼稚園・こども園、小学校の保育士・教職員が、日常の活動
を互いに参観する機会を設ける必要がある。

具体的には、公開保育や授業公開を設定し、後に協議を行うことが考
えられる。また、新たなに公開の機会を設けるのではなく、学校公開や
就学時健診等、既に設定されている行事に参観する方法もある。

コロナ以降、様々な行事が再開しているところもあるため、保育士・
教職員だけでなく、幼児・児童が交流する場も設定していくべきである。
交流とは少し異なるが、幼児が小学校施設を見学したり、45分のまと
まりで活動を体験したりする等、幼児が小学校に慣れ親しむ場を設ける
ことも考えられる。

イ 目指す子供の姿の共有

上尾市で取り組んでいる小中一貫教育を進める中で、目指す子供の
姿を各中学校区で設定している。この目指す姿を地域の園と共有するこ
とが、中学校まで見通した連携の第一歩である。

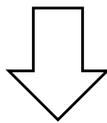
ウ ビジョンの共有の上に立った内容の共有

これまでのように活動内容の共有は重要であるが、まず各園、各校のビジョンを共有することが求められる。具体的には、グランドデザインのようなビジョンが可視化された既存の資料を共有することが挙げられる。その上で、合同研修会等の機会に内容を共有することで、より効果的な連携を図ることができると思う。また、活動内容の共有の際には、どんな環境（施設・人数等）で取り組んでいるのかも確認できるようにする。

イ、ウに共通することとして、幼保小で目指す姿や取組の内容等を共有することは、「統一する」ということとは異なる。「遊び」と「学び」の違いがあるように、そもそも目指しているものが異なるため、共有した上で、お互いの取組等を尊重しながら連携を図ることが求められる。

以上の調査審議結果を踏まえ、以下のとおり提言する。

- ① 幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」をカリキュラム等に位置付け、保育士・教職員が意識できるようにする。また各園や各学校が目指すものを共有できるようにする。
- ② 子供同士の交流については、活動をとみにするだけでなく、意図を明確にして設定する。特に、小学校の環境に慣れ親しむ活動を設定したり、活動後に「10の姿」を意識した振り返りを行ったりすることが望ましい。
- ③ 保育士・教職員間の連携は、全体の研修だけでなく、各地域の実態に応じて、適宜実施することを求める。その際、既存の研修や行事等を活用し、持続可能な連携を実施できるようにする。



幼保小の接続の現状と課題を踏まえた「架け橋期のカリキュラム」モデルの提案

〇〇園													〇〇小学校												
5歳児													小学1年生												
共通の視点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	共通の視点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期待する子ども像 目指す児童像																									
今年度の重点事項																									
配慮事項 指導上の配慮 環境面の配慮 双方へ求める配慮																									
生活	健康で安全な生活を送る												健康で安全な生活を送る												
	安心安全 自分の身は、自分で守る(避難訓練) 不審者について行かない いざという時は逃げる、助けを求める												自分の身は、自分で守る(避難訓練) 不審者について行かない いざという時の対応												
	自分のことは自分でする												自分のことは自分でする												
	物の大切にする												物の大切にする												
他者との関係	人とかかわる力を身につける												人とかかわる力を身につける												
	順番を守る 遊びを発展させる												あいさつ 国語 返事の仕方 「どうぞよろしく」												
	言葉で伝え合う												言葉で伝え合う												
	きまりや約束を守る												きまりや約束を守る												
興味・関心	好奇心や探求心をもって いろいろなものにかかわる												好奇心や探求心をもって いろいろなものにかかわる												
	文字や数量などの感覚を豊かにする												生活 「なつがやってきた」 生活 「あたらしい1年生を招待しよう」												
	自分の思いを言葉や絵、歌等で表現する												算数 「なんばんめ」 国語 「思い出して書こう」												
	保護者・保育者への感謝のプレゼント作り 絵本や物語を一人で読む												音楽 「おとでおはなし」 図工 「ようこそ新しい1年生」												
子どもの交流	〇〇小学校探検(園児と保育士のみ)												〇〇小1年生との交流会												
教職員の交流	〇〇小学校区合同ミーティング												〇〇小学校区合同ミーティング												
家庭・地域との連携	合同研修会												〇〇小学校 保護者面談 保護者面談												

令和〇年度 上尾市架け橋期カリキュラム(案2)

施設	保育所・幼稚園・認定こども園			上尾市立〇〇小学校		
対象	5歳児			1年生		
時期	4月～7月	8月～12月	1月～3月	4月～7月	8月～12月	1月～3月
①期待する子ども像	自分で考えて行動できる子 【5歳児】 ・よく寝て、よく食べ、よく遊ぶ子 ・生き生きとしたやさしい子 ・お話や絵本の好きな心豊かな子			笑顔輝く〇〇の子(元気・優しさ・勤勉さ) 【1年生】 ・様々な事に興味をもち、最後までやり遂げようとする子 ・相手の気持ちを考え、友達と仲良くできる子 ・落ち着いて話を聞き、自分の気持ちを伝えられる子		
②遊びや学びのプロセス	遊びを通した総合的学び ・「子どもの主体性」と「保育者の意図」のバランス ・遊びを通して目に見えないものをイメージする力『想像力』 ・注意を集めて取り組む力『集中力』・問題解決能力となる『思考力』 ・自分で決める力『判断力』・健康で丈夫な体を作る『体力』			各教科等における授業における学び ・主体的・対話的で深い学びの実現 ・体験活動の重視 ・教科横断的な学びの充実 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		
③園での活動・小学校での単元構成等						
④指導上の配慮事項	子供が主体的に関われるように適切な環境を構成する 様々な人と関わり合える体験を重視 友だちとの言葉のやり取りで楽しさを味わうことができる感動体験や子どもが話したいと思える環境構成と援助の工夫を探る 協働的な活動が促されるよう配慮 遊びの終わりに振り返りタイムを設け自分たちで課題解決に向けてアイデアを生み出したりする等、明日への遊びに繋がるようにする			合科的・関連的な指導を行う 児童の思いやねがいを生かした学習活動を構成する ペアやグループで自分の考えを発表する場を増やす 体験活動を重視した学習活動 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る 1人1台端末とクラウド環境の積極的な活用を図る		
⑤子どもの交流			〇〇小1年生との交流会			〇〇園5歳児との交流会
⑥保育士・教職員の交流		合同研修会	〇〇小学校区合同ミーティング		合同研修会	〇〇小学校区合同ミーティング
⑦家庭・地域との連携			保護者面談			〇〇小学校入学説明会
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	○健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり ○思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重 ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現					